産業厚生常任委員会研修報告

産業厚生常任委員会は平成 23 年 10 月 24 日から 27 日までの間、「バイオガス活用」・「観光振興」・「自然エネルギーの活用」等をテーマとする、継続した所管事務調査を宮城県、岩手県で実施しました。

表敬訪問

宮城県南三陸町

南三陸町では、過去にも津波の被害を受けた経過があり毎年大規模な防災訓練を行い、その備えにおいては万全を期していました。東日本大震災はまさに想定外とのことでした。

鹿追町においては、津波の被害は想定されませんが、地震、水害、暴風雪などの災害には日ごろより備え、避難場所、備蓄物資の確認は怠ることができません。

第２の基幹産業としての観光振興

岩手県紫波（しわ）町

平成２３年３月に紫波町では、観光振興計画を作成しました。住民と協働し計画的に観光振興を推進するためのものであり、観光振興が観光産業のみならず他産業にも経済や雇用の面においても波及効果があるので、住民参加により観光資源の発掘などを行い観光振興計画策定が望まれます。

紫波町では、現在の環境を保全し、創造し１００年後の子供たちに引き継ぐという新世紀未来宣言を行っています。鹿追町でも循環型社会の構築を目指しているがシステムづくりおいては、将来の方向を示し町民への意識づけが大事になります。

自然エネルギーの活用と今後の取り組みについて

岩手県葛巻（くずまき）町

葛巻町は、周囲を山々に囲まれ交通アクセスが不便で過疎化が進んでいる町です。「北緯４０度　ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」をスローガンにまちづくりを進めています。町民の理解を得ながら新エネルギーの導入と町おこしとを一体化して取り組んで、町のエネルギー自給率は、180％で日本一と言われています。「自立の町」を目指し、山村が持つ豊かさや魅力を再認識しながら「夢」に挑戦する町づくりを進め、住民が住み続けたいと思える町、誇りを持てる町をコンセプトとしてまちづくりを進めています。町民の理解のもとに新エネルギーの導入に民間企業をうまく取り入れ積極的に取り組んでおり、その状況を見るため多くの視察者が訪れ、まちの活性化につながっています。

鹿追町においてもバイオガスプラントの視察者が増えていますが、その方たちに町に少しでも滞在してもらい、お金を使ってもらう仕組み（宿泊、食事、土産品などの購入）を構築することが必要です。

食品廃棄物エネルギー化事業

宮城県仙台市

仙台市内のごみ処理がメインの民間施設（株式会社新興）ですが、副次的産物であるバイオガス、電気、堆肥の有効活用を目指す「バイオアークプロジェクト」としてリサイクル・ループ（生産・収集・処理）の完結を目指しています。食品廃棄物と下水道汚泥の処理にバイオガスプラントを使用していますが、特に臭いが外に漏れない工夫や処理が随所に見られ、脱臭、消臭の技術は、今後取り入れる必要を感じました。

つぶやき ■「議会だより」の誤字脱字を発見するのを楽しみにされている町民がおられます。隅々まで目を通すことになるとか。校正には努めていますが皆さんも探してみて下さい。